

令和2年度第2回野々市市総合計画審議会 議事録

- 日時 令和2年11月4日（水） 14時から16時
- 場所 野々市市情報交流館カメラア2階 ホール椿（※オンライン参加の方はZoom利用）
- 次第
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 報告
 - (1) 野々市市第二次総合計画策定スケジュールについて
 - (2) まちづくりのための意識調査結果 市民・出身者・職員横断まとめについて
 - (3) 作業部会の委員の決定について
 - 4 議事
 - (1) 野々市市第一次総合計画第九次実施計画（案）について
 - (2) 野々市市行政改革大綱（第6次）の推進状況について
 - 5 その他
 - 6 閉会

出席委員	朝倉 あづさ委員	上野 弘子委員	榎本 俊樹副会長	太田 利一郎委員
	堅田 芳弘委員	狩谷 満春委員	澤村 昭子委員	鹿田 正昭会長
	関口 英委員	田多野 和彦委員	中塚 稔委員	中村 昭一委員
	西村 一正委員	東 伸明委員	平泉 沙由里委員	藤田 雅顯委員
	宮川 渉委員	山下 真利奈委員	山本 剛行委員	山本 善明委員
	吉川 明彦委員			

欠席委員	坂井 和代委員	シー 里香委員	初野 健二委員
------	---------	---------	---------

事務局	山口副市長	加藤総務部長	北企画振興部長	堤健康福祉部長
	北川土木部長	中田教育文化部長	越柴秘書室長	荒木財政課長
	木戸口企画課長	企画課職員（窪補佐、北坂主査、三井主査）		

<p>司会（木戸口課長） 開会</p>	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、ただいまより令和2年度第2回野々市市総合計画審議会を開催します。皆様方には、公私ともにご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を担当させていただきます企画課長の木戸口です。どうぞよろしくお願ひします。着座にて進行させていただきます。</p> <p>今回は、前回の会議でご意見を頂きましたとおり、オンラインとの併用にて会議を開催させていただくことといたしました。この審議会では初の試みであり、通信等のトラブルや会議の進行等でご不便をおかけする場面が生じる可能性もありますが、今後のポストコロナを見据えてチャレンジさせていただきたいと考えております。質疑応答などルールを設けて進めてまいりたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>初めに、本日の会議ですが、オンラインにて3人、こちらの会議室にて18人、合わせて21人の委員が出席です。</p> <p>野々市市総合計画審議会規則第3条第2項の規定により、委員のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>次に、開会に当たりまして、皆様にお願ひが3点あります。1点目は、この審議会は、開催状況を市のホームページで公表しており、会議録を作成するため、会議の内容を録音させていただきたいと思ひます。発言の際は、マイクをお持ちいただきますので、マイクをご使用いただきますようお願いいたします。今回、オンラインにてご参加の委員もおられることから、マイクを使用し明確にお話いただきますようお願いいたします。</p> <p>2点目は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、今回の会議も1時間半程度での開催を想定しております。資料や説明に関するご質問やご意見は簡潔にまとめていただき、会議の円滑な進行にご協力いただきますようお願いいたします。また、会場は適宜換気をさせていただきます。</p> <p>3点目は、今回の会議には、総合計画策定支援業務を担当していますコンサルタント事業者にオンラインにて同席をいただいておりますので、ご了承願ひします。</p>
<p>司会（木戸口課長） 資料の確認</p>	<p>続いて、本日の会議資料を確認させていただきます。</p> <p>資料1-1：策定スケジュールについて 資料1-2：まちづくりのための意識調査結果 市民・出身者・職員横断まとめ 資料1-3：作業部会委員一覧 資料2-1及び2-2：野々市市第一次総合計画第九次実施計画（案）について 資料3：野々市市行政改革大綱（第6次）の推進状況について</p> <p>以上です。皆様のお手元に資料はありますでしょうか。</p>
<p>司会（木戸口課長）</p>	<p>2 会長あいさつ</p> <p>それでは、続きまして鹿田会長にご挨拶をお願ひしたいと思ひます。鹿田会長は本日、オンラインにてご参加いただいております。皆様、会議室前方のスクリーンをご</p>

鹿田会長 (会長挨拶)	<p>覧ください。それでは、鹿田会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>皆さん、こんにちは。会長の鹿田です。本日も皆様方のご協力を得て会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>先ほど木戸口課長からもご紹介がありましたが、前回の審議会で、オンラインでの会議の開催についてご提案がありました。ウィズコロナ、アフターコロナ、ニューノーマルという状況を考えますと、オンラインでの会議というのはこれからのスタンダードになるのではないかと考えています。「感染しない」「感染させない」という観点から、事務局とも相談の上、今後はオンラインと対面のハイブリッドでの開催にさせていただきます。</p> <p>私も今日はオンラインで参加させていただきますが、画面には会場全体の様子も映っておりますので、それを見ながら進行を進めていきたいと思います。</p> <p>今回は対面でご参加の皆様が非常に多いですが、オンライン環境をお持ちの方は、遠慮なくオンラインでご参加ください。これまでの習慣で、こういった会議は対面が必須だとお感じになっている委員もおられると思いますが、ウィズコロナ、ニューノーマルではオンラインは日常の慣習となっており、対面と遜色ない臨場感で参加いただけたらと思います。敷居が高いとお感じになっている方がおられるかもしれませんが、インターネットをご利用の方であれば、事務局から送られてきたURLをクリックするだけでこのように参加ができますので、ぜひご利用いただければと思います。</p> <p>さて、今回の会議ですけれども、皆様と策定を進めている「第二次総合計画」についての進捗報告、これに併せまして、現行の「第一次総合計画」に係る施策等の推進状況を報告いただきまして、今後、重点的に推進すべき項目について審議をいたします。</p> <p>皆様におかれましては、率直なご意見を頂きますことをお願いしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上です。</p>
司会（木戸口課長）	<p>鹿田会長、ありがとうございました。</p> <p>野々市市総合計画審議会規則第3条第1項で、会長が会議の議長となることと定めておりますので、この後の議事進行につきましては、鹿田会長にお願いしたいと思います。</p>
鹿田会長（進行）	<p>3 報告</p> <p>承知いたしました。それでは、早速ですが、議事の進行に移ってまいります。</p> <p>まず、報告事項（1）から（3）についてまとめて事務局より説明をお願いします。この説明の後に、質問の方法について、木戸口課長から説明があると思います。会場での質問への対応については木戸口課長にお任せしますが、Zoomでの参加者からも質問があるかもしれませんのでお声かけいただきたいと思います。Zoomで参加</p>

事務局
(資料の説明)

されている方で、どなたかの発言があった直後に、その発言に対してご質問があるというようなこともあると思います。その場合はZoomのチャットに「質問あり」と一言ご記入いただければと思います。また、可能でしたら、Zoomで質問される場合は、ビデオをオンにし、ビデオを開始していただければと思います。

では、(1)から(3)について、まとめて事務局より説明をお願いします。

〔説明資料〕資料1-1 策定スケジュールについて

企画課課長補佐の窪と申します。よろしくお願いたします。着座にて説明させていただきます。

報告(1)野々市市第二次総合計画策定スケジュールについてご説明させていただきます。資料は1-1です。

9月に開催させていただきました第1回総合計画審議会におきまして、「どのように計画書をまとめていくのか分かりにくい」というご意見を頂戴しました。この点につきまして、改めてこの資料を用いましてご説明させていただきたいと思っております。

資料1-1の左上をご覧ください。本年10月までは、①「市の現状を把握する、市民の声を集める」取組ということで、具体的には「基礎調査やアンケートによる意識調査」の実施及び分析を行い、また、「施策の総括」ということで、計画に定めております32の施策ごとに、これまでの取組や設定した成果指標の動向・進捗、そして、市民意識調査や基礎調査で得られた情報などを踏まえ、課題や今後の方向性を取りまとめております。そのほか、先日の10月25日には、市民ワークショップをオンラインで開催させていただきました。

それらを基に、現在のこの時期は、各種データやこれまでの施策の実施状況から本市の現状や課題を整理いたしまして、また、意識調査や市民ワークショップなどから、まちづくりへの想いといった「市民の声」を集める取組を実施しました。

11月から3月頃までは、②の「第二次総合計画の方向性を検討する(基本構想の検討)」ということで、「作業部会、審議会」と表記させていただきましたが、具体的には、先ほどの①の10月までの取組の結果をもとに、市民15名、市の中堅職員10名で組織します作業部会で、第二次総合計画の方向性(いわゆる基本構想)を検討します。その検討した内容につきましては、翌年3月末までに開催予定の総合計画審議会でお諮りさせていただくこととしております。

次に、令和3年4月から7月頃まで、③の「第二次総合計画で推進する具体的な取組を検討する(基本計画の検討)」ということで、先ほどの②の結果を全庁に示しまして、各課で具体的な取組や成果指標、既存の成果指標の見直しも含め、改めて検討します。そして、これらの基本計画(案)を取りまとめ、作業部会で内容を確認し、調整していくという作業をいたします。

令和3年3月までを目途に全体の方向性、体系を検討し、その結果に基づきまして、令和3年4月から7月にかけて、具体的な取組や成果指標を設定、検討することとしております。

次に、令和3年8月頃まで、④の「第二次総合計画(案)をまとめる」ということ

で、②、③の期間で検討しました基本構想（案）、そして基本計画（案）を、第二次総合計画（案）として取りまとめ、9月に⑤のパブリックコメントを行い、12月に⑥の基本構想について議会にお諮りし、令和4年3月までに⑦の計画書の印刷を行い、令和4年4月から計画期間開始となりますが、計画書の配布・PR等を行うとともに、計画に基づいた施策を進めていくスケジュールといたしております。

簡単ですが、資料1-1、策定スケジュールの説明につきましては、以上です。

[説明資料]資料1-2 まちづくりのための意識調査結果 市民・出身者・職員横断まとめ

続きまして、報告（2）まちづくりのための意識調査結果 市民・出身者・職員横断まとめについてです。資料1-2をご覧ください。

前回の審議会では、集計中であったことから暫定版ということでご報告させていただきましたが、結果がまとまりましたので、特徴的なものを抜粋し、ご報告させていただきます。

意識調査につきましては、市民、出身者、職員を対象に実施しました。対象者数・回収率をご覧のとおりです。

下のグラフについて説明させていただきます。グラフのうち、青色と緑色の部分は「そう思う」、「やや思う」というような前向きな回答、ポジティブな回答を示しており、黄色とピンク色の部分は「さほど思わない」、「思わない」というような後ろ向きな回答、ネガティブな回答を示しています。

1 ページ目は、「野々市市の印象」についての回答を、市民・出身者・職員で比較したものです。「10. 住みやすいまち」であると感じている人は、市民・出身者・職員の全てにおいて「そう思う」、「やや思う」という回答割合が高かった項目です。一方で、「6. 個性（特色）あるまち」「7. 有名なまち」については、「さほど思わない」、「思わない」という回答が市民・出身者・職員に共通して高く、まちの知名度の向上や特色の発揮につきまして課題があるとうかがえたところです。

続きまして、2 ページ目をお開きください。2 ページ目は、暮らしの印象についての回答のグラフです。左が市民、右が職員の回答結果となっております。

赤色の丸で囲んでありますが、4 番「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」、5 番「子育てしやすい」、9 番「魅力ある住環境が整備されている」、10 番「交通の利便性が高い」と感じている人の割合については、市民・職員ともに6割を超えており、おおむね暮らしやすいまちだと感じている人が多いことがうかがえます。

また、青色の丸で囲んであります2番の「住民と行政が共に協力してまちづくりを進めている」、13番「迅速で適切な行政サービスが受けられる」につきましては、市民の回答結果では、「そう思う」、「やや思う」の割合が5割以下となっておりますが、職員のグラフをご覧くださいと6割を超えており、市民と職員とで、市民協働のまちづくりや行政サービスの印象の捉え方に差があることがうかがえました。

一方で、オレンジ色の丸で囲んでいる11番「地域の資源を生かした産業が根付いている」、12番「野々市市の魅力が他の地域に発信されている」につきましては、市民・職員ともに「そう思う」、「やや思う」の割合が3割以下となっており、先ほどの

1 ページ目と同様に、まちの知名度の向上や特色の発揮に課題があるということがうかがえます。

3 ページ目をご覧ください。「10 年後の野々市市がどのようなまちであってほしいと思いますか」という質問に対する回答のグラフです。赤色の丸で囲んだ9番「子育て支援・教育」につきましては、市民・出身者・職員全てで回答割合が高くなっており、また、赤丸で囲んでいる「21 番暮らしやすい住環境」、22 番「公共交通」につきましては、市民と職員とで回答の割合が高くなっております。また、青色で囲んでいます7番「健康・医療」、8番「高齢者・障害者福祉」につきましては、市民では割合が高く、職員では他と比べて特段割合が高くなっていません。また、職員のグラフの6番「地域での支え合い」につきましては回答の割合が高くなってはいますが、市民では、他と比べて高くないという状況があります。市民と職員とで捉え方に差が生じております。

4 ページ目をご覧ください。「今後の居留意向」、「今後も野々市市に住み続けたいですか」という質問に対する回答のグラフです。市民で、市内への継続した居留意向のある人の割合は8割以上となっております。職員のグラフにつきましては、「現在野々市市に住んでいない」という回答を除いた場合、「ずっと今の場所に住み続けたい」「当分の間今の場所に住み続けたい」という回答は同じく8割以上となっており、市内での居留意向が高いことがうかがえます。

続きまして、5 ページ目をお開きください。市民対象のアンケートのうち、市の施策につきましては、「現状の満足度」と「今後の重要性」の回答をグラフに落とし込んだものです。こちらのグラフは、前回の審議会でもお示しさせていただきましたが、グラフの横軸は満足度を表し、縦軸は今後の重要性を示しております。赤色のAのエリアにつきましては、「満足度は低く、重要性が高い」と回答があった施策で、「今後重点的に実施が必要」と考えられるものです。黄色のBのエリアにつきましては、「満足度も重要性も高い」と回答が得られた施策ということで、「今後も継続して実施が必要」と考えられるものです。青色のCのエリアにつきましては、「満足度も重要性も低い施策」ということで、「今後、事業手法や事業規模等の見直しが必要」と考えられるものです。緑色のDのエリアにつきましては、「満足度が高く、重要性は低い」と回答があった施策で、これにつきましては、「当初の目的はほぼ達成され、事業展開の在り方の検討が必要」と考えられるものとして区分したものです。

右側の表でそれぞれの施策を明記していますが、また後ほどのページで改めてご説明させていただきますので、次の6 ページをご覧ください。

こちらは、職員対象のアンケート結果を、同様な形で区分分けしたものです。左のグラフの横軸は他都市と比べた優位性、縦軸は今後の重要性を示しております。同様にAからDのエリアに区分し、右の表でそれぞれの施策を明記していますが、市民の回答と職員の回答を比較した表が、次の7 ページにありますので、7 ページをご覧ください。

「市民と職員の評価の相違」ということで、まず下の左側の表をご覧ください。「市民と職員で評価の位置づけが異なる施策」をまとめたものですが、上から順番に、「高齢者福祉の推進」ほか3 施策につきましては、グラフの縦軸でありました重

要性についての評価は、職員、市民それぞれ共通しているのですが、職員は優位性を感じているけれども、市民の満足度は低くなっているということで、事業展開について市民に伝わっていない可能性や、市の施策が市民のニーズに沿っていない可能性があることがうかがえたところです。

表の一番下の「市民協働のまちづくり」のように、市民は満足し、重要性も感じていないのですが、職員は重要だと感じている施策など、評価の位置づけが異なる施策が 13 施策ありました。

それに対しまして右側の表は、「市民と職員の評価の位置づけが同じ施策」をまとめたものです。一番上の「交通安全対策の強化」、「防犯対策の強化」など、赤色の A から黄色の B の施策につきまして、今後重点的に実施する施策、今後も継続して実施する施策の分類として共通していたものです。その下の青色の C から緑色の D の施策については、事業手法の見直しや、事業展開のあり方の検討が必要な施策として共通していたものであり、今後の重点化や在り方を見直す上で、市民と職員との間に意識のギャップが小さいため、理解が得られやすいのではないかと考えられるものと捉えております。

これら意識調査の分析結果などを踏まえ、今後の基本構想・基本計画の検討に当たってまいりたいと考えております。

資料 1 - 2 の説明は以上です。

【説明資料】資料 1 - 3 作業部会委員一覧

続きまして、報告事項（3）作業部会の委員の決定について、資料 1 - 3 をご覧ください。策定のスケジュールでもご説明させていただきましたが、今後の基本構想・基本計画を検討するに当たり、市民と職員との協働で策定することを目的として組織いたしました作業部会の委員の一覧です。関係団体等から 8 名、公募の委員が 7 名、市の中堅職員 10 名、合計 25 名により組織いたしました。

関係団体の選定につきましては、福祉・子育て、保健・医療、農業、産業、スポーツ、文化・芸術、関係人口という視点に基づきましてお声掛けさせていただいた方々です。公募の委員につきましては、市広報やホームページ等で周知させていただき、応募いただいた方々です。市の中堅職員につきましては、主査から係長級の職員、年齢は主に 30 代の職員で構成いたしております。

簡単ではありますが、説明は以上です。

司会（木戸口課長）

ただいま事務局から報告事項（1）から（3）までの説明をさせていただきました。

本日は鹿田会長にはオンラインで参加を頂いており、皆様のご指名が難しい状況にありますことから、事務局にて質疑応答の対応をさせていただきたく存じます。鹿田会長初めオンラインで参加されている委員の方に会場の状況が伝わるように、ご発言される場合には、まずお名前からお伝えください。それでは、ご質問などあれば、お願いいたします。

<p>吉川委員</p>	<p>吉川です。まず、この資料をまとめてくださった方々に感謝の言葉を申し上げますと思います。たくさんデータをきれいにまとめていただき、読みやすかったです。ありがとうございます。</p> <p>資料1-2ですが、市民・出身者・職員という3層でアンケートを取られていますけれども、出身者とはどういう方でしょうか。また、3層でアンケートを取られた意図について、お聞かせください。</p>
<p>木戸口課長</p>	<p>まず、お褒めの言葉を頂きまして、ありがとうございます。</p> <p>アンケート調査につきましては、出身者は東京野々市会、関西野々市会の方です。それから、市民・出身者・職員を対象にアンケートを実施しておりますが、これは前回策定時も同じような形でアンケートを実施しており、町から市になった比較もしたいという意図があったことから、比較ができるよう、質問内容も含めまして同じような形で実施いたしました。</p>
<p>吉川委員</p>	<p>続いての質問ですが、資料1-2の1ページ目について、市民と出身者と職員とで大体同じようなアンケートの結果を示しておりますので特に問題ないと思うのですが、出身者の母集団が33人と非常に少ないため、これが大きな比率を占めると大きな誤差が生じますので、母集団の少なさも頭に置いて調整して頂きたいと思いません。</p> <p>全体としては、職員は職員らしい意見、市民は市民らしい意見を出しており、職員と市民の意識の違いの対比もあり、非常に興味深く読ませていただきました。</p> <p>少し気になるのは、市民協働のまちづくりについて、職員と市民の間に非常に大きな乖離があるというような説明を頂いたのですが、市民協働のまちづくりというのはこれからも非常に大事なことになるので、もう少し市民にPRしていただき、次の機会ではこの乖離を埋められると良いと思います。市民は現状で満足しているということは、市民協働で何かをやろうという意識がまだ生まれていないということかと思えます。大学の社会経営学のような講座では、「市民協働をやらなければ、これから行政のコストがかかり過ぎて行政がうまくまわらない」と言われる社会学者の方がたくさんおられます。まだ市民はそこまで理解されていないと思えますが、職員の方は国や県などから情報を頂いてそういったところを理解しているため、こういった意識の乖離が出ていると思えます。そういったことを、ぜひ市民へ適切にPRし、市民協働で今後やっていけるようにしていただきたいなと思えます。</p>
<p>木戸口課長</p>	<p>吉川委員からありがたい言葉を頂きました。</p> <p>出身者のアンケートですが、これからまたいろいろな形で市民の声を聞いていきたいと思えます。先立って、オンラインで市民ワークショップを開催いたしました。参加いただいた市民にアンケートに回答いただき、率直な声を聞いたりもしていますので、今後、ご意見を参考にしていきたいと思えます。</p> <p>市民協働のまちづくりの点につきましては、アンケートの結果に基づきまして、作業部会において市民の方との対話の中からこのギャップをどう埋めるか、そのよ</p>

	うなことも検討していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
司会（木戸口課長）	そのほかにご質問等、ありますでしょうか。
藤田委員	野々市市の連合町内会の藤田と申します。 アンケートの対象の職員のところ、市職員 263 名に対して回答されたのが 256 名、97.3%となっておりますが、この7名はなぜ回答しなかったのですか。
木戸口課長	回答数が 100%でないというご指摘ですが、休職中の職員等が年間を通して常に存在しており、実施期間中にそういった方がいたということです。
藤田委員	それを最初から対象としたのはなぜですか。
木戸口課長	療養中の職員を含んでおり、そういった職員等からの回答が得られなかったためです。
司会（木戸口課長）	そのほかにご質問等はありませんでしょうか。
宮川委員	体育協会の宮川と申します。 資料1-3の作業部会員一覧ですが、全体を通して見ると、非常に女性が少ないと第一印象として感じます。公募委員については、7名の枠からすると、男性4名に対して女性3名ですから大体良い割合かと思うのですが、市の中堅職員は男性8名に対して女性2名です。そういったバランスも考える必要があるのではないかと思うのですが、人数の関係で、どうしてもそうならざるを得なかったのでしょうか。
木戸口課長	ご指摘のとおり、女性が若干少ないということもありますが、関係団体につきましては、各分野からいろいろなお声を聞いて決定した関係上、致し方ないというところもあります。中堅職員は女性が2名となっていますが、作業部会に参加する中堅職員以外に、若手職員もおり、合わせて庁内のワーキンググループを組織しております。若手職員の中にも女性職員はおり、庁内のワーキンググループ全体で見ますと女性の割合は4割を少し切るぐらいとなっています。
司会（木戸口課長）	そのほか、質問はありますでしょうか。
上野委員	私も宮川委員と同じで、もう少し女性の委員さんを増やしてほしいと思います。
木戸口課長	確かに女性の割合は少ないと感じていますが、これから作業部会等いろいろな機会に市民の方のご意見をお聞きする中で、女性の意見を取り入れていきたいと思えます。また、先日、野々市明倫高校の1年生が、授業で、本市の魅力をPRする動画を作成され、発表会に参加してきました。発表者には女子生徒がかなり多く、若者

	<p>の、女性の意見として、今後、参考にしていきたいと思っております。</p>
司会（木戸口課長）	<p>その他ありますでしょうか。</p>
山下委員	<p>資料1-2の1ページについて質問ですが、市民で「住みやすいまち」と答えている方が多いということですが、このデータに関して年代別のデータはないのでしょうか。というのも、若い世代が住みやすいと感じているのと、おじいちゃんやおばあちゃんになる世代が住みやすいと感じているのでは、少しニュアンスというか、今後の方針が変わってくると思います。全体的なデータも良いですが、もう少し細かい年代別のデータがあると、今後、詳細を考えていけるのではと思います。</p>
木戸口課長	<p>「住みやすいまち」と回答された方については、20代男性は90%近く、30代も90%となっております。今ここにお示しはしていませんが、意識調査の全体の報告書の中には細かいデータもありますので、そちらで確認することができます。実際の回答率から見ると、やはり高齢者の方の回答が多く見受けられます。</p>
司会（木戸口課長）	<p>次に、藤田委員からのご質問です。</p>
藤田委員	<p>資料1-2の3ページで、「10年後の理想のまち」という質問に対し、「市民協働・市民参加」という回答が1.9%でした。第一次総合計画では、施策1-1で「市民協働のまちづくり」を掲げ、これを中心に推進しているのに、先ほど吉川委員がおっしゃったように、「市民協働」という言葉を市民の皆さんに分かっていただけていないということが表れたものと思っています。</p> <p>私の立場として、10年間、この総合計画をずっと見ていまして、市民協働がこれだけ浸透しないのはなぜだろうと、今深く反省しているところですが、このことは大変問題ではないかと思えます。自分たちで錦の御旗を掲げたものが市民の皆さんに伝わっていないということではないかと思えますので、今後の対応を考えていただければと思います。</p>
北企画振興部長	<p>今のご質問についてお答えいたします。</p> <p>現在、市民活動団体のように市民協働について理解をいただいている市民も多々いますが、「街全体として市民協働が理解されているか」というところがただ今のご指摘かと思えます。先ほど吉川委員からご指摘のありました資料1-2の7ページのデータにもありますように、市民協働のまちづくりについては、「市民は満足し、重要性も感じていないが、職員は重要だと感じている」という結果でした。先ほどのご指摘も、市民協働で頑張っている市民の方、職員もいますが、市内の市民協働に対する理解、また、市内における市民協働に対する理解の広報なり普及を考えていくということが、次の施策のテーマの1つでもあるかなと感じておりますので、推進してまいりたいと考えております。</p>

司会（木戸口課長）	そのほかにご質問等ありますか。
関口委員	資料1-1の1ページに市民アンケートの回収率が載っていますが、全国的に見てこの回収率自体はいかがなのでしょう。
木戸口課長	回収率につきましては、全国的に見ても若干良いのかなというところ。他の平均に比べましても、それほど遜色ありません。
関口委員	野々市市の施策に関し、関係人口を増やしたいということがあったかと思えます。アンケートへ回答するということが一番関わりやすいとも言え、関係人口の指標にもなるのかなと思いました。全国的に見ても回収率が良いということが、野々市市として、「関係人口が多い」という最低限のラインを超えるという指標の1つになるのではないかなと思ひ、質問させていただきました。
木戸口課長	ご指摘、ありがとうございます。関係人口について、何を指標として成果を測るかというのは難しいところではありますが、例えば先ほど申しました野々市明倫高校の生徒さんにつきましても、市内在住の生徒さんよりも近隣自治体から通われている生徒さんが多いそうです。そういった方々に野々市市の魅力をPRしてもらおうという取組を学校で実施いただいたわけですが、取組を通して野々市を好きになっていただければ、その生徒さんたちが関係人口となり、関係人口も増えてくると思ひます。金沢工業大学と石川県立大学の学生さんについても、県外出身者が6割ということで、そのようなことから関係人口は今後増えていくかと考えております。そういった方々も大事にしていきたいと考えております。
司会（木戸口課長）	Zoomにより参加されている皆さんから、ご質問・ご意見はありますか。
鹿田会長	私のほうから、これまでの全体の質問の内容について少しコメントさせていただきます。
	まず、資料の1-1です。吉川委員からも分かりやすいというお話があったと思ひますが、流れが非常に分かりやすくなり良かったと思ひます。
	アンケートについていろいろなご意見があり、皆さんそれぞれ良いポイント突いているなという感じがしましたので、このアンケートの結果について、ぜひ、十分に活用されるようお願いしたいと思ひます。特に、7ページにまとめてあります「市民と職員の評価の相違」です。このまとめが、今後、作業部会等を進めていく際に非常に重要になってくると思ひますので、7ページの内容は慎重に評価をする必要があると思ひます。
	個別には、資料1-1の2ページの「暮らしの印象」で、13番「迅速で適切な行政サービスが受けられる」という設問について、職員と市民とでかなり回答が違っているというのが少し気になりました。この齟齬がどこで起きているのかということとは今後議論していけばよろしいのではないかなと思ひました。

	<p>資料1-3の作業部会の委員について、公募委員が7名ということですが、私は前回の審議会の際に「年齢別とか職業別とかいろいろな点でバランスをとれるようにできないでしょうか」ということをお聞きしていました。7名というのは限定だったのか、それから、公募委員の方の年齢層などに偏りがいいのかという点について少しお聞きしたいと思います。</p> <p>女性が少ないという件については、これは決まったことだと思いますので、女性の意見をたくさん吸い上げていただくようにしていただければいいかと思います。</p>
木戸口課長	<p>公募委員の人数については、6名程度ということで募集し、7名の方に決定させていただきました。年齢については、各年代がそろっています。</p>
鹿田会長	<p>分かりました。ここまでの報告事項の中でも貴重なコメントがたくさん出ていましたので、それらを検討した上で、第二次総合計画の案をまとめていただきたいと思います。最初のこの3つの報告については、私から以上です。</p>
木戸口課長	<p>ありがとうございます。それでは、議事を進めていただいてよろしいでしょうか。</p>
鹿田会長	<p>4 議事</p> <p>それでは、次の議事に移ります。</p> <p>議事の1番目の「野々市市第一次総合計画第九次実施計画（案）について」、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局 (資料の説明)	<p>〔説明資料〕資料2-1及び2-2：野々市市第一次総合計画第九次実施計画（案）について</p> <p>議事（1）野々市市第一次総合計画第九次実施計画（案）について、説明させていただきます。資料は2-1と2-2です。</p> <p>先ほどまでの説明は、令和4年度からの10年間を計画期間とした「第二次総合計画」の策定に関するものでしたが、この実施計画につきましては、現在の第一次総合計画を推進するために重点的に推進する項目などを定めるものです。資料2-1の「第九次実施計画」につきましては、実施計画の趣旨や計画期間、推進項目などで構成していますが、これらの内容を取りまとめたものが、資料2-2ですので、資料2-2でご説明させていただきたいと思います。</p> <p>資料2-2「野々市市第一次総合計画 第九次実施計画（案）について」をご覧ください。</p> <p>まず「1 実施計画策定の趣旨」ですが、この実施計画は、第一次総合計画に掲げます将来都市像の実現と政策の達成に向けて、施策、主要な事務・事業の中期的な取組方針を明らかにするものでして、「重点的に推進する項目」を定めることとしております。施策・事務・事業の進捗状況を踏まえ、毎年度見直しを行い、実施計画として定めているものです。最終的な策定期間については、来年度の当初予算が確定い</p>

たします令和3年3月を予定しております。

続きまして、「2 計画期間中に重点的に推進する項目（政策）」についてです。今年度の行政評価の結果を踏まえ、昨年度に引き続き、推進項目は「政策6 野々市産の活気あふれるまち【産業振興】の重点的な実施」としております。

「政策6」が重点的に推進する項目に至った経緯ですが、行政評価の結果、産学連携や特産品に関する取組に遅れが見られたことから、産業振興の分野につきまして重点的に実施することとしたものです。

重点推進項目決定に関する補足の説明ですが、右側のページをご覧ください。「行政評価と実施計画における推進項目（政策）との関連」ということで、三角形の図は総合計画の体系を示しております。図の一番下ですが、中段の「施策」を達成するための手段であります「330の事務と事業の評価」を行い、その次に、一番上の「政策」を達成するための手段である真ん中の「97の施策」の行政評価を行っております。その結果を基に、「遅れているもの」ということで推進項目の決定を行っております。

政策6につきましては、去年に引き続き推進項目として定めます。産業の分野につきましては、行政だけの取組で完結するものではなく、企業活動や経済情勢の影響を受けることもあり、他の政策に比して順調に推進されにくい面や、推進に時間がかかる面もありますが、令和元年度に策定しました「第2期のいち創生総合戦略」におきましても、本市の特性を活かし、関係機関との連携により産業の振興を一層推進していく計画としていることから、着実に取り組んでいくこととしたいと考えております。

続きまして、2ページ目をお開きください。「3 令和2年度に実施した行政評価の結果について」です。

まず、「(1) 事務及び事業の評価の結果」についてです。これは先ほどの三角形の体系図の一番下に当たるものとしてイメージしていただければと思います。令和元年度に実施しました330の事務事業につきまして、令和3年度の方向性を「拡大・重点化」から「終了・完了」まで7段階で行政評価を行いました。

評価の結果につきましては、上の表が7段階それぞれの評価ごとの事務事業数をまとめたもの、下の小さい表は、「拡大・重点化、改善」、そして「縮小、統合、廃止」をさらにまとめた表です。

下の表でご説明させていただきますと、「拡大・重点化、改善」、つまりさらなる推進や内容・手段の見直しが必要と評価した事務事業の占める割合が最も高かった政策が「政策6」の産業振興で、28.6%という高い割合を占めておりました。

右のページ「(2) 施策の評価の結果」をご覧ください。先ほどの三角形の体系図の中段に当たるものです。こちらは、第一次総合計画に掲げております97の施策に設定しています成果指標の達成状況につきまして、「順調」から「遅れている」までの4段階で評価を行った結果をまとめたものです。「評価対象外」としているものにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業などで、数値化できなかった成果指標を挙げております。

上の表は、4段階それぞれの評価ごとの成果指標数をまとめたものでして、下の表につきましては、「順調・おおむね順調」と「やや遅れている・遅れている」をさ

らにまとめたものです。下の表でご説明させていただきますと、「順調・おおむね順調」と評価した成果指標が占める割合が最も低かった政策、そして「やや遅れている・遅れている」と評価した成果指標が占める割合が最も高かった政策は、共に「政策6」の産業振興で、割合はそれぞれ66.7%と26.7%でした。

これらの評価結果を踏まえまして、政策6の産業振興の分野を重点的に推進する項目として定めるものです

3ページ「(3) 施策の評価の一部抜粋」をお開きください。前のページの(2) 施策の評価結果のうち、「順調に進んでいるもの」と「遅れがみられるもの」と、主な成果指標を抜粋して挙げさせていただきます。

政策1から政策8のうち抜粋してご説明させていただきますと、【市民生活】の分野の政策1「一人ひとりが担い手のまち」では、「順調に進んでいるもの」といたしましては「協働事業実施団体」が、目標値30団体に対して実績値が33団体、「大学と行政の協力事業数」では、目標値125に対して実績値が143でした。

一方、「遅れがみられるもの」といたしまして、「市民主体のまちづくりに関心のある市民の割合」が、目標値60に対しまして44.9%でした。より関心を持っていただくための取組を実施する必要があるものと考えています。

次の政策2【福祉・保健・医療】につきましてご説明します。「順調に進んでいるもの」といたしましては、市内に3か所設置いたしました地区包括支援センター相談件数が目標値を上回っておりまして、地区包括支援センターの利用が進んでいるものと考えております。

一方で「遅れがみられるもの」としまして、「老人会の会員数」が目標値に達しておらず、定年延長や趣味活動の多様化等が要因と考えておりますが、会員増加に向けて支援を行ってまいりたいと考えております。

政策5【生涯学習・教育】の分野では、「順調に進んでいるもの」といたしまして、「新市立図書館貸出冊数」があります。学びの杜ののいち カレードの図書館の貸出冊数ですが、実績値が目標値を超えており、非常に多くの方にご利用いただいている状況であります。

一方で「遅れがみられるもの」としまして、「さわやかスポーツフェスティバル参加人数」や「デジタル資料館へのアクセス数」が伸び悩んでいる状況です。

最後に、重点的に推進する項目とさせていただきました政策6ですが、「順調に進んでいるもの」といたしまして「i-BIRD 入居企業のうち本市支援企業数」が、目標値12に対して、家賃補助の取組の成果で実績が12あった状況であります。

一方で「遅れがみられる項目」としまして、「産学連携事業支援件数」、「学卒者県内就職率」などが挙げられました。特に「学卒者県内就職率」で、大学生の県内就職率につきましては、市内に2つの4年制大学が立地している中で、今後の人口減少時代を見据え、市外や県外への人口流出を防ぐことが課題であり、野々市市だけでなく、金沢市などを含めた石川中央都市圏の市町や県内との連携を図る必要があるものと考えております。

資料2-2の説明は以上です。

司会（木戸口課長）	ただいまの説明に対しましてご質問等がありますでしょうか。
堅田委員	政策6の「野々市産の活気あふれるまち」の中で、順調に進んでいるものとして「野々市認定ブランド商品数」があります。目標値10に対して実績値4となっておりますが、順調という評価でよろしいのでしょうか。
北企画振興部長	「野々市認定ブランド」につきましては、一昨年から開始し、第1回目の初年度に椿の水引アクセサリー、ヤーコン焼酎「うまいがいね」、キウイフルーツワインの3点が認定され、昨年度は商工会女性部さんの草木染が認定され、合計で4点となりました。制度の開始前からみると大きく前進し、ブランド品のPR・ブランド力強化のための奨励金の制度も組立てたところであり、一步一步着実に進めているということから、目標値10に対して実績値4という状況ですが、順調に進んでいると評価をしているところです。
堅田委員	<p>分かりました。</p> <p>もう1点、資料2-2の最初のページで、政策6の「野々市産の活気あふれるまち【産業振興】の重点的な実施」というところで、大学や企業との連携というのはよく理解できます。特産物のブランド化については、農業振興にこだわっている可能性があり推進が遅れているといったことがあるのではないかと思います。そういう分析はないでしょうか。</p>
北企画振興部長	確かに、ヤーコンの活用やツバキ茶の開発といった農産物に偏るということもあります。また、「ヒト、モノ、コト」という観点から幅広くブランドと位置付けていけないかというようなことを考えています。野々市を代表するようなものであれば、ヒトであったりアプリであったり、組織ということで一つの企業であったり、ブランドとはそのようなものでも良いのではないかという考えです。そのあたりの意識改革を進めながら、本市の特産物についても考えてまいりたいと考えております。
司会（木戸口課長）	そのほか、ご質問とご意見ありますでしょうか。
中村委員	<p>県内就職率について、なぜ就職で県外へ出るのかということ、野々市市、そして石川県には本社がありませんよね。本社機能を野々市市に移転する際に重要なのは、補助金です。補助金は良いのですが、聞くところによりますと、建屋のほうの本社機能、駐車場や建屋の施設は補助対象にならないとのこと。一見、非常にお金をもらいやすいというようなニュアンスですが、いざ申請してみると、これは駄目、あれは駄目と言われ、非常に補助金が少なくなる。結局、本社移転をする企業が少なくなる、というような話を聞きましたので、もう少し、補助金を使いやすい制度にした方が良いのではないかと思います。そういう会社があれば、当然学生さんもそこに就職するので、県内就職率は上がると思いますが、どうでしょうか。</p>

北企画振興部長	<p>産業振興課に、本社機能に対する補助金の制度があります。ここ数年では1、2件の実績もありますが、中村委員の言うように、やはり使い勝手のいい制度について、現行の制度を見直す、ニーズに応じていくようなことは絶えず考えていきたいと思えます。学卒者の県内就職について、本社があれば就職し、定住につながるという可能性もありますので、今のご意見を頂き、見直さなければならぬものは見直し、魅力ある補助制度にするということを考えてまいりたいと思えます。</p>
司会（木戸口課長）	<p>そのほか、ご質問とご意見ありますでしょうか。</p>
東委員	<p>2点、質問させていただきたいと思えます。</p> <p>2012年に社会保障と税の一体改革ということで、消費税の導入という形で国が動き始めました。2016年に「1億総活躍プラン」を閣議決定し、2017年に社会福祉法が大きく変わりました。その点から、民生委員として地域福祉に関する内容を2点質問させていただきます。</p> <p>「地域共生社会の実現」ということを打ち出しているわけですが、この「野々市市第一次総合計画」、それから「野々市市第一次総合計画【中間見直し】」の中で、この「地域共生社会の実現」という理念が若干希薄な気がしてなりません。</p> <p>私は、地域福祉計画といった分野別計画の部会にいくつか参加しており、今回初めてこの総合計画の審議会に参加したのですが、この問題があまり取り上げられていないのでいささか驚きました。国の法律がどんどん変わっていく中で、「地域共生社会の実現」という理念がこの中に組み込まれているのかどうか、その点について1つお伺いしたいと思います。全ての分野別の計画は、いわゆる総合計画に基づいているわけなので、その点について気になりました。</p> <p>それからもう1点ですが、現在、コロナ禍で高齢の方に関する問題が大変大きくなっておりますが、これから先は、これらに貧困の問題が関わってくるのではないかと考えています。貧困の問題については、この計画が遂行されていく中でも社会状況が大きく変化していくことと思えますが、どのような見直しというのを考えていかれるかということをお伺いしたいと思います。</p>
木戸口企画課長	<p>まず「地域共生社会」ですが、次期総合計画の策定につきましては、審議会の皆様や専門的な見地からのご意見、市民の皆様からのご意見、様々な観点からの声が必要不可欠と考えております。そうした貴重な意見を参考とさせていただき、次期総合計画に反映させていきたいと考えております。</p> <p>東委員からご質問を頂いた「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進」についてですが、市の地域福祉計画には、より具体的な地域福祉の推進に向けた取組を反映させ、市の最上位計画である総合計画との整合性を図るなど、今後進めてまいりたいと考えております。</p> <p>2点目の貧困につきましてですが、第二次総合計画にはSDGsの視点を取り入れていくこととなります。SDGsの17の目標の1つに、貧困をなくそうという大きな目標があります。そういった観点からも、そういったことも取り入れながら策定を進め</p>

	ていきたいと考えております。
東委員	<p>ありがとうございました。SDGs で求めているところの貧困と、コロナ禍における貧困の問題というのは大きく違うのではないかと思います。コロナ禍における今、生活困窮者、すなわち生活保護世帯が急増していると思います。生活福祉金の活用もどんどん広がっているという現状であり、SDGs でお話ししている貧困というのは、もっと世界的なグローバルなお話だと思います。</p> <p>そして、私は前回初めてこの審議会に出席させていただきましたが、この総合計画の中で SDGs という考え方・理念というのは、どのような形で取り入れていこうというふうにお考えなのか、そこも含めてご説明いただきたいと思います。</p>
木戸口企画課長	<p>確かに大きな視野・グローバルな問題ですが、SDGs の目標というのは「誰一人取り残さない」という視点が大事で、それは全ての人々に該当しますので、本市に合った取組という方向で施策に反映していきたいと考えております。</p>
北企画振興部長	<p>ただ今の東委員からのご指摘につきましては、グローバルな問題の貧困と、身近な生活に関わるような貧困という問題のご指摘であったかと思えます。木戸口課長の説明にありましたように、グローバルな SDGs の考え方、視点を持ちながら推進していくという考え方もありますが、実際に生活に困窮されている方や生活保護などの対応も考えてまいりたいと思っております。第二次総合計画の策定にあたっては、次の新たな視点といたしまして、SDGs、そして関係人口をテーマに組み入れることを考えております。SDGs につきましては、各市町で既に推進している施策もあります。そういうものを整理しながらこの計画に反映する、また、新たな視点を取り入れ対応し、事業化をしていくというように考えているところです。</p>
司会（木戸口課長）	<p>そのほか、ご質問等ありますでしょうか。</p>
澤村委員	<p>評価の一覧を見ますと、「やや遅れている」や「遅れている」という評価がいくつかありますが、その気になればすぐできるようなものもいくつかあるかと思われま。例えば「審議会委員について女性の参画を拡大する」というのは、すぐできるのではないかという気がします。「老人会の会員を増やす」というのはなかなか難しいと思いますが、私が参加している審議会の中で、女性1人という審議会がいくつかあります。銀行さんの支店長さんを委員とするとほとんど男性になってしまうこともあるかもしれませんが、支店長に限定せずに委員を選出していただければ、女性委員も少し増えるのではないかと思います。時間がかかるものは仕方ないと思いますが、すぐできるものには手をつけていただき、遅れているものについてはぜひ進めていただきたいと思えます。</p>
北企画振興部長	<p>ただ今のご指摘について、特に女性の参画につきましては、私どももやはり女性の参画が多くなっていけばと考えておりますので、一層努力してまいりたいと思っ</p>

司会（木戸口課長）	<p>しております。</p> <p>そのほか、ご質問等ありますでしょうか。</p>
吉川委員	<p>資料2-2についてです。事務及び事業の評価で330件、施策の評価で224件、膨大な資料を頂きましてありがとうございます。</p> <p>この中で浮き彫りに出てきたのが、産業政策が遅れているということです。これは私も妥当だと思うので、この辺についてもう少し具体的な政策があればと思います。資料2-2の3枚目に成果指標が一部抜粋されており、産業政策については「産学連携事業支援の件数」と「学卒者県内就職率」が挙げられています。これで本当に産業政策ができるかという、少し乖離があるように思います。市内には金沢工業大学と石川県立大学という2つの大学があるので、連携し、もう少し産業振興を進めて欲しいと思います。産業で一生懸命作っておられますが、ビジネスとして大きな利益が出るとは思えないのです。もう少し「お金になるようなもの」というのも考えていただきたいと思います。例えば次世代の産業みたいなものです。この審議会には金沢工業大学の先生も石川県立大学の先生もおられますので、次世代型の産業、例えば石川県立大学であれば微生物とか機能的な食品とか、そういった新しいものがあると思うので、そういったところをぜひ検討していただきたいと思います。</p> <p>それから、インキュベーターがありますが、現在の利用状況はどうなっているのでしょうか。結構利用いただいていると聞いていますが、「人が集まると知恵が集まる」と言われています。人が集まれば、野々市のようなコンパクトなところでもできる、野々市らしい産業もあるのではないのでしょうか。例えばドローンの操縦が上手いとか、熊に鈴をつけるとか、色々なIoTを使った産業ができてきておりますので、そういったところをちょっと検討して次回書き込んでいただきたいと思います。</p> <p>もう1点、先ほど東委員からSDGsの話が出ていましたが、第2期のいち創生総合戦略という計画がありますよね。これと総合計画との関係性がよく分かりません。第二次総合計画では、関係人口の増加とSDGsを重点的に推進するということが言われていますが、それを具体的にしていくためには、こちらの計画へ組み込まないとつながってこないと思います。この2点は野々市市にとってすごく大事なところです。SDGsは世界的な規模ではありますが、具体的に取り組むのは野々市市です。そういったところも具体的に考えていただいて、こちらのほうに落としただけなのか、あるいは、これらの計画のつながり、関係性について教えていただきたいと思います。</p>
北企画振興部長	<p>1点目のインキュベーター施設であるi-BIRDの利用状況につきまして、実績値は12で、12の企業さんが入居され、いろいろな分野の方が来ていただいています。</p> <p>そういった中で、ただ今のご指摘のように人を集める、あるいは利用していただくために、市のほうでi-BIRDの部屋を借り上げました。それを3分割し、オフィスとして活用いただくというものです。既に入居予定者もおられ、そういうような施</p>

設を幅広く利用しながら、人を集め、新たな発想、新たな起業をしていただきたいと思っております。

次に、遅れがみえているものとして、産学連携事業支援件数を指標の1つに設定しており、目標値3に対し、実績値0となっております。この指標は、「産学連携スタートアップ事業補助金」の実績を表しており、中小企業が県内の大学等と共同研究や企画研究開発を開始する際に必要な経費の一部を支援するというものです。今回の実績値は0件ですが、平成23年に1件、学生向けのアパートのリノベーションのプロジェクトがありました。平成29年度には、養液栽培の基礎研究や見守りシステムの研究が2件ありました。多くの人に発想を実現させるための機会やチャンスを活用いただき、それをまた市の施策に活用していくということが重要な視点だと思っておりますので、そのような思いで進めてまいりたいと思っております。

山口副市長

少し補足させていただきます。

吉川委員からご指摘があったとおり、成果指標に少し問題があるのではないかといるところがあります。決められた成果指標で行政評価をしておりますので、企画振興部長が回答させていただいたように、補助金によっては利用されない方が増えていることもあります。

一方で、現在は1の1NONOICHIもありますし、石川県立大学の前にはi-BIRDという中小企業の基盤整備機構による起業家育成施設があります。ここについては、市が今年度から少し事務所を借り上げ、起業を考えている人たちに貸し出そうということを考えております。新しい指標として、例えば何名の方がこういう施設を利用して起業したかとか、そういった指標も盛り込んでいけば良いのかと思っております。

先ほど吉川委員からご意見がありました総合戦略との関係性ですが、総合戦略については、国を挙げて全国で地方創生を推進するために各自治体が策定したものであり、それに総合計画を紐づけたために少し分かりにくい面があるかと思っております。

第2期ののいち創生総合戦略と第二次総合計画とで整合性が取れるように整備してまいりたいと思っております。

司会（木戸口課長）

そのほか、ありますでしょうか。

藤田委員

起業家を育てる、創業者を育てるという意味合いで補助金の提供がありますが、この程度で起業はできません。行政として、お金でなく、バックボーンたる信頼を与えていただけないかなと思っております。私は今「結（ゆい）ネット」の活用を進めていますが、この野々市をモデルに地域づくりが進んでおり、他の大きな自治体も含め、活用が広がってきております。今後、そういったリーダーシップを取れるようなモデル地区になることを、この野々市で、皆さんでやっていただければ、総合計画の基本が出来上がるのではないかなと思っておりますので、ぜひもう一度その辺をお酌み取りいただいた総合計画の立案をお願いしたいと思っております。

北企画振興部長

貴重なご意見、ありがとうございます。市内でも「結ネット」は広がりつつあり、

	ただ今のご指摘の視点も入れながら総合計画の策定に取り組んでまいりたいと思います。
司会（木戸口課長）	そのほか、ありますでしょうか。
太田委員	先ほどから野々市産の産業振興について委員の方からいろいろな意見がありましたが、野々市市をPRし、野々市市の人口を増やすのであれば、学卒者の県内ではなく、市内の就職率を指標とした方が良いのではないのでしょうか。野々市市にも高校生の方がたくさんおられると思いますので、その方がどこへ就職するか、これを考えないと政策目標の政策に一致しないと思うのですが、学卒者の市内就職率を考えたことはないのですか。
木戸口企画課長	現在のこちらの指標は、「いしかわ学生定着推進協議会」が掲げている指標を用いており、第二次総合計画では指標として設定できないかと思っておりますので、検討していきたいと考えております。
司会（木戸口課長）	そのほか、ご意見等ありますでしょうか。
平泉委員	資料2-1の37ページから質問をさせていただきます。 162番「野々市市PRキャッチコピーの作成」については、第七次の実施計画から盛り込まれている項目かと思っておりますが、七次、八次までは実施状況が一貫していません。カミーノ、北国街道の磨き上げ、そういった実施状況が書かれているのですが、今回、実施状況のところに「新たに発信できる素材を新たに発掘し」と書かれています。現状の地域資源では勝負できないとご判断されたのかなと思います。令和3年に向けて目標から少し遠のいている印象ですので、この変化についてどうしてなのかというのが1点目です。 もう1点は提案になるのですが、このキャッチコピーについて、野々市市民を巻き込む形で公募して作成することができれば、愛着心の向上にも役立つのではないかと考えているのですが、いかがでしょうか。 以上、2点よろしく申し上げます。
北企画振興部長	確かにキャッチコピーにつきましては、やや遅れているという評価をしておりますが、新たなものがなかなか出てこないというのが現実であり、新たなものに挑戦していこうということでこのような記載になっているかと思っております。公募につきましては、検討すべきかなというように感じています。
司会（木戸口課長）	平泉委員、よろしいでしょうか。
平泉委員	愛着心の向上というのは、職員の方が推進したい項目でもあると思うので、一挙両得と言いますか、野々市市民の愛着心の向上にも市民の興味が向くことになるか

	<p>と思うので、そういったふうにやっていただけたらと思い、ご意見をさせていただきました。ありがとうございます。</p>
北企画振興部長	<p>ただ今の意見を参考にしながら検討を進めていきます。</p>
司会（木戸口課長）	<p>それでは、鹿田会長のほうから SDGs に関してコメントがあるということですので、よろしく願いいたします。</p>
鹿田会長	<p>東委員ほか何名かの方から SDGs についてのお話が出てきました。私もこれについて、お聞きしたいと思っていましたところ。</p> <p>まず1つは、SDGs そのものは世界を変えるための17の目標ということで、世界的に国連が取り組んでいます。自治体や、あるいは私どもの大学も SDGs に取り組んでいます。個々の自治体なり大学なり団体が、その SDGs の目標に対してどれぐらい貢献できるのか、そういうレベルで策定すれば良いということだと私は認識をしております。野々市市につきましては、資料2-2で言いますと、3ページ目に政策1から政策8までのキーワードがあります。おそらく、これから策定される際に、具体的に SDGs の何番目に相当するのかということが書かれていくと思うのですが、そういうような視点をまず明らかにした上で、どういうふうな視点からこの SDGs に関与していくのかということを議論されていけばいいのかなと思います。</p> <p>SDGs の1番から17番というのは、この政策の1から8の左側に記載されているキーワードに少なくとも1つないし2つは関連してくると思います。そういった点について、明確にされた方がいいのではないかなと思いました。</p> <p>また、非常に貴重な意見がたくさん出ていましたので、事務局のほうでも真摯に検討していただいて、次の計画案に反映させていただきたいと思います。</p>
北企画振興部長	<p>貴重なご意見、ありがとうございます。</p> <p>SDGs につきましては、まずは市内の意識を高めるため、先般、金沢工業大学の平本先生に講演を頂き、さらなる理解を深めている状況です。講演をお聞きしまして私が思いましたのは、例えば市の広報の発送についてです。仮に結ネットを活用することで紙での発送を減量するというようなことが、業者、市民、行政の関係の中で可能であれば、資源の確保・減量につながるというふうな、そういうような、小さな取組であっても、それが世界的へ通じていくといった視点を持ち、職員一丸となって SDGs につきましても検討してまいりたいと思っております。</p>
鹿田会長	<p>ありがとうございます。平本先生のお話、「バックキャスト」という話があったかと思えます。現在の視点ではなく、10年後にこうなっているだろうということを想定した上で、遡って今だったらどうすべきか、という議論だというお話があったかと思えますので、そういう視点でこの政策を見ていただくと非常にいいのかなと思いました。</p>

北企画振興部長	<p>第二次総合計画にはバックキャストिंगの概念も取り組んで政策を決定してまいりたいと思っております。</p>
鹿田会長（進行）	<p>次に議事の2、野々市市行政改革大綱（第6次）の進捗状況について、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局 （資料の説明）	<p>続きまして、議事の（2）、資料3をご覧ください。野々市市行政改革大綱（第6次）の進捗状況についてです。</p> <p>「ヒト、モノ、カネ、情報」といった資源を最大限に活用いたしまして、市民満足度の最大化、効率的な行財政運営を推進するための指針といたしまして、平成29年度に、令和3年度までを推進期間とする「行政改革大綱」を定めております。大綱で定めております20の推進項目につきましては、行政の経営の視点と公共の経営の視点、この2つの視点に基づきまして、それぞれ進捗状況の評価を行いました。評価は、当初の計画どおりに進んでいるか、当初の計画から遅れているという形で評価いたしております。</p> <p>令和元年度の進捗状況ですが、20の推進項目における合計32の視点のうち29の視点につきましては「当初の計画どおり進んでいる」となっておりまして、3つの視点につきましては「当初の計画から遅れている」となりました。「当初の計画から遅れている」3つの視点につきましては、ご説明させていただきたいと思っております。</p> <p>まず「戦略的な人材育成」の「行政の経営」の視点であります。資料は3/20ページをお開きください。「職員が自身の可能性と能力を最大限に引き出し、育成するための研修体制の整備」を行うことを目的としております。新たな研修計画を策定することと、総合計画で定めます対象者の研修受講率を指標として設定いたしております。令和元年度は、現在の市の方針に沿って研修を行いまして、新たな研修計画素案の作成を行い、それに基づく研修の実施にも取り組んだところであります。令和元年度の実績値の欄ですが、「新たな研修計画の策定完了までには至っていない」ということで、「当初の計画から遅れている」ということで評価いたしております。研修計画の素案の内容を精査するなど、完成に向けて取組を推進してまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして、資料の14/20ページをお開きください。「14 ビッグデータを活用したまちづくりの推進」の公共の経営の視点です。「ビッグデータを活用した協働事業の企画の推進」を実施の目的とし、「ビッグデータを活用した協働事業の事業数」を基準値といたしております。令和元年度の具体的実施内容といたしまして、協働事業の企画の推進に向けて、市の主要な統計データの整備・把握に取り組みましたが、協働事業の企画、実施までには至っていない状況です。データ整備等にかかるコストの問題もあるところですが、市民や各種団体、企業等のアイデア、発想による市の保有する様々なデータ、いわゆるビッグデータを活用した事業の実施につなげるための有効な取組などにつきまして、引き続き情報収集を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>最後に、資料の18/20ページをお開きください。「18 自主財源の充実」について</p>

です。「地域資源の有効活用等による増収と本市の知名度の向上」を実施の目的といたしまして、「ふるさと納税受付件数」と「ガバメントクラウドファンディング実施事業数」を指標に設定いたしております。令和元年度の実績値ですが、ふるさと納税の受付件数が12件、ガバメントクラウドファンディングの実施事業数はゼロということで、目標値に達していないことから「当初の計画から遅れている」と評価いたしております。ふるさと納税につきましては、令和2年度から本格的に取り組んでおり、令和2年10月末現在で81件のご寄附を受け付けさせていただいております。また、ガバメントクラウドファンディングにつきましては、寄附やいわゆる資金のご提供を頂ける魅力ある事業が必要であることから、引き続き対象事業の検討に取り組んでまいりたいと考えております。

資料3の説明は以上です。

司会（木戸口課長）

議事の2番目について説明をさせていただきました。この件につきまして何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

中塚委員

項目番号3、「戦略的な人材育成」とありますが、公共的な機関というのは戦略的な人材育成が進んでいかない傾向があると思います。なぜかという、民間会社のように中途採用ができない、思い切った異動ができないということが大きな理由だと思います。例えば総務関係で育った人は総務関係の部署で育成されていく、あるいは、商工の分野で育った人は商工関係の部署で育成されていくような部分があるのではないかと思います。研修をいくらやっても結果は同じで、研修で戦略的な人材が育つかといたら必ずしもそうではないのではないかと思います、いかがでしょうか。

越柴秘書室長

ご意見ありがとうございます。

中途採用あるいは思い切った人事異動が必要ではないかということです。ここ何年か前から、職員採用に当たりましては年齢幅を若干広げておまして、新卒者以外、民間あるいは他の自治体等の経験者にも門戸を開いてきたところであります。人事異動につきましては、将来的に組織を担っていく人材を育てたいということで、なるべく若いうちから多くの部署を経験していただくという方針の中で、そのような人事異動を行ってきているところであります。人材育成は、なかなかこれをやれば即座に効果で出るという特効薬があるわけではないと思いますし、時間がかかるということも承知しております。特効薬ではないですが、いろんな研鑽を積んでいただくことは必要ですので、これまでも毎年研修計画は作ってまいりましたが、明確な目標に欠けていたのではないかという視点から、新たな研修計画の策定に取り組み始め、今に至っているところであります。昨年度はほぼ調査研究を終えて完成に向かって進んでおりましたが、昨年度の後半から、国の法律改正により、今年の4月1日から非常勤職員を全国一律の条件でもって雇わなければいけないといった新たな制度を即座に実施するよという命が下ったため、こちらに注力をいたしたことから、新たな研修計画の完成にまでは至らなかったのですが、目標に向け、本

	<p>年度当初から新たな研修をスタートしたところです。</p> <p>ただ今のご意見を肝に銘じまして、人材育成、組織づくりというところに邁進してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会（木戸口課長）</p>	<p>Zoomによる参加の委員の皆様、何かご意見等がありますでしょうか。</p>
<p>山本剛行委員</p>	<p>行政改革大綱（第6次）は平成29年度から令和3年度に進める取組ということですが、まさにコロナ禍の今、世の中も大分一変したかと思えます。ワークライフバランスであるとか、テレワークといった働き方改革について世の中で叫ばれております。収納方法の拡充については、我々は銀行ですのでそういったことも関係しておりますが、キャッシュレス化、あるいは、国の方で各種申請の電子化や印鑑レスといったことも言われています。</p> <p>行政改革大綱（第6次）は29年度から始まった計画ではありますが、コロナ禍の状況を踏まえ、新たな取組や今後考えているところがあればお聞かせいただければなと思えます。</p>
<p>山口副市長</p>	<p>何か新しいことを考えているのかということだと思いますが、このコロナ禍にあって、現金の取扱いに抵抗を持っていらっしゃる方も多いということで、今後、キャッシュレス化を進めてまいりたいと思っております。具体的には、例えば市民課での戸籍や印鑑証明の発行手数料、税務課、公共施設、そういったところにキャッシュレス化を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>それから、会議の開催方法もそうですが、新しい生活様式を十分意識してまいりたいと思えます。例えば、地域を支えていただいている民生・児童委員さんにつきましては、100人以上いらっしゃいますので、一堂に集まると密になるということもあり、今後はタブレットを活用していきたいということです。市としてもそういったところを支援させていただいたところであります。</p>
<p>鹿田会長</p>	<p>今、資料3についてお2人の方からご意見があったのに対して、コメントいたします。中塚委員から途中採用や人事異動についてのご意見がありました。いくつかの自治体では、職員を民間に一定期間派遣するといったことを実施している自治体もあると聞いており、そのようなことも考えていく必要があるのかと思いました。</p> <p>山本委員のコロナ禍での話ですが、コロナ禍においてDX（デジタルトランスフォーメーション：デジタルによる変革）をどのように取り込んでいくか。ハンコをなくす等いろいろなことが、今まで考えていなかったようなことが起きてきているわけです。今回のZoomでの審議会の開催もそうですが、なかなかすぐには取り組めないとは思いますが、そういうことも少し頭の片隅に置き、ご指摘があったように多少考えて大綱づくりをしていく、あるいは、見直しするというようなことを明示しておくということも必要なのではないかなと思いました。</p> <p>これで議事は全て終了いたしました。最初にも述べたのですが、オンラインの活</p>

	<p>用をどんどん進めていただければよろしいかと思います。本日も事務局にきちんとコントロールをしていただいたので、私は全然別のところにいますが、議事の進行は全く問題なくさせていただきました。オンラインで参加された委員にも、ご発言いただきました。</p> <p>この先どういうふうにこの感染が広がっていくか。石川県は多少落ち着いていますが、他のところでは感染が拡大しているところもありますので、そういう意味では、コロナ禍の全体の状況を考え、今後もこういうオンラインといったスタイルで開催してもいいのではないかと私自身は思っていますので、事務局で検討いただきたいと思います。</p> <p>これで議事は終わりましたが、その他に何かご発言をされたい方がおられましたらお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
司会（木戸口課長）	<p>会場からは特にございません。</p>
鹿田会長	<p>それでは、本日の議事についてはこれで終わりたいと思いますので、事務局へお返しをいたします。</p>
	<p>5 その他</p>
司会（木戸口課長）	<p>鹿田会長、ありがとうございます。委員の皆様におかれましては長時間にわたりまして、誠にありがとうございます。本日頂きましたご意見をもとに野々市市第二次総合計画及び第九次実施計画の策定に取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>今年度最後の審議会は2月ごろの開催を予定しております。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視した上での開催とし、状況に応じまして書面会議での開催も想定しております。今後、日程調整などのご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは最後に、閉会に当たりまして山口副市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
	<p>6 閉会</p>
閉会あいさつ （副市長）	<p>委員の皆様には、長時間にわたりまして慎重にご審議を頂きました。本日皆様から頂きましたご意見を参考にしてしっかりとした計画を作り上げてまいりたいと思っておりますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
司会（木戸口課長） （閉会）	<p>以上をもちまして、令和2年度第2回野々市市総合計画審議会を終了させていただきます。</p> <p>皆様、本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。</p>